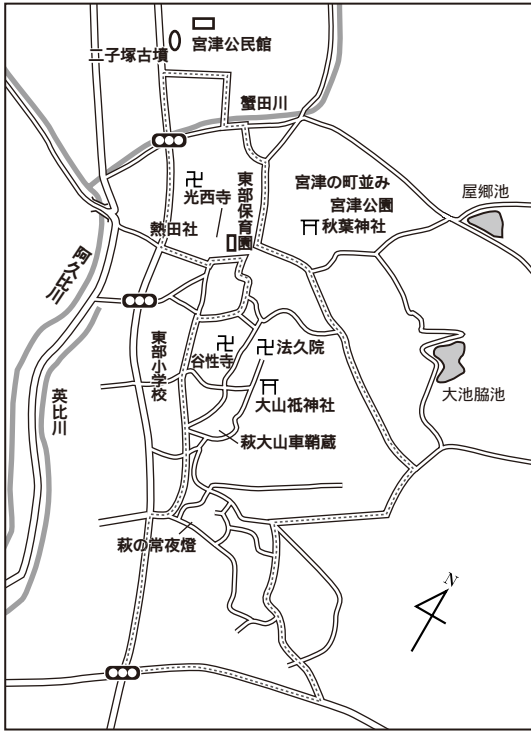


シリーズ

阿久比を歩く ⑥1



宮津の町並み

第五チエックポイントの「二子塚古墳」からぶらり旅を再開。二子塚古墳は古墳時代中期後半の前方後円墳で町の指定文化財になっている。本格的な発掘調査は行われていないとのこと。こんもりと盛り上がった二つの神秘的な丘。何が眠っているのか興味津々だ。

第六チエックポイントの「宮津の町並み」を歩く。狭い路地が多く、道はそれぞれの民家へと続く。昔な

ふねありマップを歩く(史跡めぐりコース②)

あ
ぐ
い
ぶ
ら
り
旅

史跡めぐりコース

つかしい板塀の家並みが残る。車の通りも少なく、静かな雰囲気。首輪に鈴を付けた猫ならぬ犬が、短い足でチヨコチヨコと私たちの前を横切っていく。とてもどかた。

町並みを通り抜け、東へ歩くと常夜燈を発見。その横の坂道は第七チエックポイント「秋葉神社」へと続く。坂道の石段を数えながら登っていく。「秋葉神社が、アキバ系ですよ」途中で友人がつまらないことをいうので、数えた石段の数を忘れてしまふ。

「柳審城」と呼ばれる城があったと伝承が残る地に秋葉神社は建つ。ここから西側を望むと阿久比川を中心とした田園を眺めることができる。実りの秋。稲穂を付けた田は黄金色と黄緑色に、穂がこれからという田は緑色と三つの色をかもしだす田園は今の時期にしか見ることができない。一望できる景色も素晴らしいが、自然が作り出す色も見事だ。「アキバ系で言うと、萌え」かなあ」と友人がつぶやく。(漫画好きと聞いてはい

たが友人は以外と「オタク」なのかもしれない)

第八チエックポイント「萩の常夜燈」を通過して、最後の第九チエックポイント「萩大山車鞘蔵」に到着。流れる汗をタオルでぬぐい、鞘蔵の前に座り込み休息を取る。

出発地点の東部小学校へと向かう。キンモクセイの木が民家の庭先に見える。花を咲かせ、秋風とともに、甘い香りを運ぶのも、間もなくのことだろう。晴れわたる空は青空夢と希望と。白雲と。友人が歌う。「今日の日にびつたりの詞だねえ。そのメロディーどこかで聞いたよなあ」と私が聞く。「我が母校、東部小学校の第三番です」。史跡めぐりコースは友人の歌に始まり、歌で終わった。



秋葉神社の参道入口に建つ常夜燈